



やしろ

矢代小学校だより
平成 23 年度 第4号
9月15日

137 回目の創立記念日を迎えて

8月31日に第2学期を開始しました。夏休み中、子どもたちは自分のペースで過ごしていたので、学校生活に慣れるのに時間がかかるかなとおもっていましたが、どの学年もきちんとした態度で始業式に臨むことができたのには驚きました。改めて矢代っ子の素晴らしさに感心しました。

さて、各戸へ配付された印刷物や新聞等によりご存知のとおり、矢代小学校の統合が決まりました。校舎の老朽化、急激な児童数の減少等により、残念ながら来年度をもって138年間に及ぶ歴史を閉じることとなりました。平成25年度から子どもたちは、隣の新井小学校に通うこととなります。

始業式で、子どもたちに統合について伝えました。大部分の子どもは知っていましたが、低学年の子どもの中には、びっくりしたり、とまどったりする様子も見られました。残された1年半で、学力と気力、そして矢代小学校への愛情をさらに高め、自信と誇りをもって新井小学校に行こうと子どもたちに呼びかけました。

その取組の一環として、創立記念日の9月7日には、当校の卒業生である春日良樹様（新井北小学校長）を講師にお迎えし、講演会を行いました。当時の学校生活や子どもたちの遊びについて、子どもたちは熱心に聞き入っていました。昔は児童数も多く、体育館が人でいっぱいになったこと、鼓笛隊があったこと。そして、川や森、植物や動物等、矢代の豊かな自然とともに生活し、育ったことに目を輝かせ、興味津々な子どもたち。改めて子どもも、職員も、脈々と受け継がれてきた矢代小学校の足跡、そして素晴らしさを実感したひと時でした。

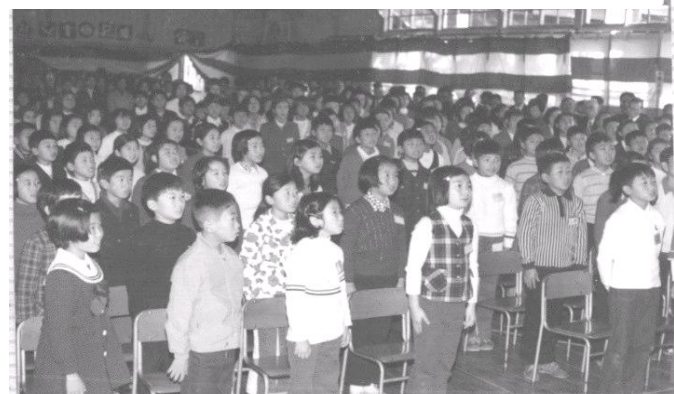
24年度末に向けて、長い歴史をもつ矢代小学校が、有終の美を飾れるよう全職員で努めます。ご理解と一層のご支援をお願いいたします。



昭和40年代頃の矢代小学校。木造校舎ならではの温かさと凝った造りが印象的な職員玄関の前を、子ども達が通り過ぎる。元気なあいさつが聞こえてくるようだ。



運動会で演奏を披露する鼓笛隊、体育館いっぱいになんだ子どもたち。往時の矢代小学校が偲ばれる。

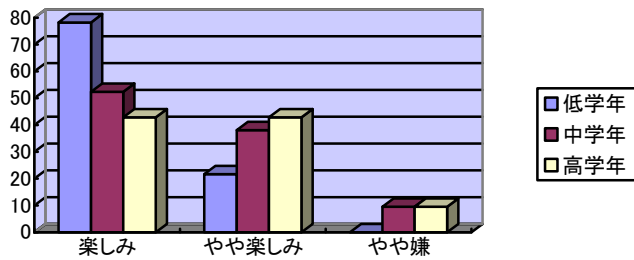


どっちが本当？矢代っ子の生活

1 学期保護者アンケートから

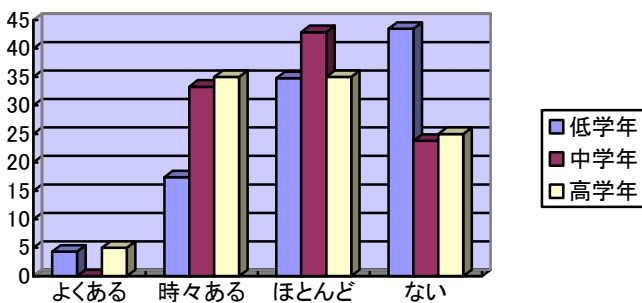
保護者の皆さんの学校に対する思いや、子どもたちが家庭でどのように過ごしているかを把握するため、6月に保護者アンケートを実施いたしました。結果を集約したところ、次の4つの項目で、子どもの自己評価と保護者の評価が大きく異なることが分かりました。子どもが自分に甘いのでしょうか、保護者の皆さんの目が厳しいのでしょうか。どちらが矢代っ子の実像に近いのか話し合われてはいかがでしょうか？

1 お子さんは学校に行くのを楽しみにしていますか？嫌がっていますか？



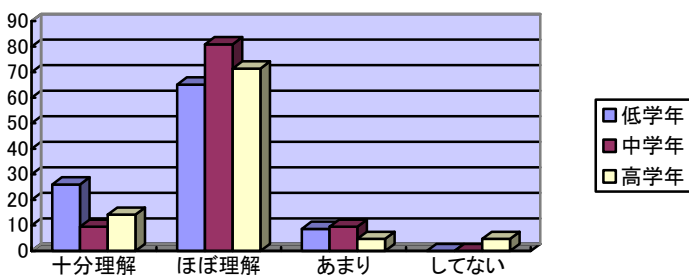
子どものアンケートでは、89%が「とても楽しい」11%が「どちらかという楽しい」と答えている。しかし、保護者の目からは、約10%が「やや嫌がっている」ように感じられるとのこと。子どもの本当の気持ちは、どっちだろうか？

2 お子さんは、学校で嫌なことを言われたり、されたりしたと訴えたことがありますか？



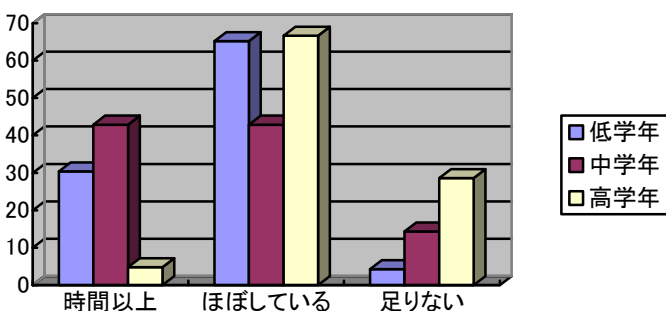
子どものアンケートでは、「時々ある」が全校で5人だが、18人の保護者が「時々ある」と答えている。学校での嫌だったこと、友人とのトラブルを家庭で話すが、その後、自分たちで解決できたということであろうか？ それとも、隠しているのだろうか？

3 お子さんは学校の学習が分かっているでしょうか？



「よく分かる」と答えている子どもは、全校の87%（54人）であるが、同様の評価は保護者の17%（11人）でしかない。保護者の75%（47人）が「ほぼ理解している」と、子どもの自己評価より1ランク下である。保護者の場合、どうしても日々の授業ではなく、テストの結果で評価するからであろうか。

4 お子さんは家庭学習（低学年30分以上、中学年45分以上、高学年60分以上）をしていますか？



全体的は高評価であるが、これも子どもの自己評価に比べ保護者の評価が1ランク下がっている。「とてもよくできている」と87%の子どもが自己評価しているが、保護者の評価では26%である。これは、「家庭学習は時間ではなく、質が大切である」との指摘かもしれない。時間から質へと家庭学習のめあてを進化させる時期に来ているかもしれない。